

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

* 2022 *

Autumn

神秘と不思議を巡る
美しき王国ヨルダン

第二特集

紺碧のアドリア海を巡る

初寄港 [トリエステ・コペル・スプリト]

[発行] (株) ジャパングレイス

神秘と不思議を巡る 美しき王国ヨルダン

ヨルダンは立憲君主制の王国で、北海道と同じくらいの面積をもつ。ピースボートクルーズとしては11年ぶりの寄港となる。広く知られている世界遺産ペトラ遺跡や死海をはじめ素晴らしい自然と歴史遺産の宝庫であり、初めて訪ねる場合でも親しみやすい観光地が多い。またイスラム圏のなかでも戒律がゆるやかであることから、年間を通して世界中から観光客がやってくる。

Hashemite Kingdom of Jordan

GLOBAL VOYAGE
2022 Autumn

CONTENTS

特集

神秘と不思議を巡る

美しき王国ヨルダン P3

ミステリアスな岩の芸術
ペトラ遺跡が語るもの P4

赤茶色の砂漠と巨大岩石からなる
壮大な世界、ワディラム P6

浮遊体験で知られる死海は
古来のリゾート地 P7

ヨルダン唯一の海岸線
アカバ観光からアンマンへ P8

現実を伝え、改善を求め続ける行動を
パレスチナ難民支援 P9

感動新たに
あの名画の風景を訪ねる P10

参加者インタビュー P12

第二特集

紺碧のアドリア海を巡る P14
初寄港[トリエステ・コペル・スプリト]

優雅に街歩きを楽しめる[トリエステ] P14

スロベニア唯一の商業港[コペル] P16

クロアチアの世界遺産都市[スプリト] P17

PEACE BOAT ACTIVITIES P18

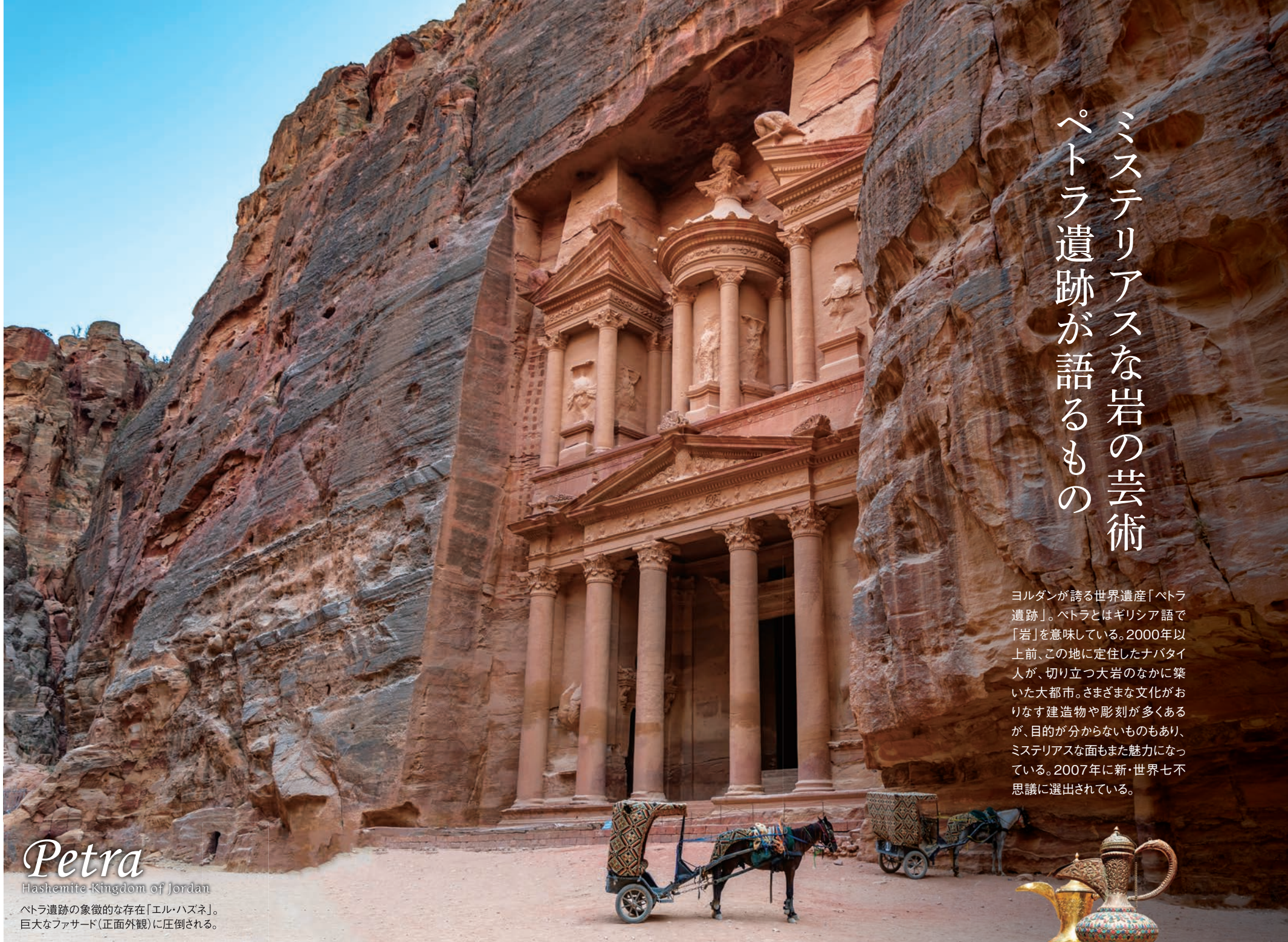
表紙の写真

世界遺産のペトラ遺跡。中心部に誘う、断崖にはさまれたシーク(峡谷)の終わりはいちだんと狭く、そのすき間から「エル・ハズネ」が現れてくる。



ミステリアスな岩の芸術 ペトラ遺跡が語るもの

ヨルダンが誇る世界遺産「ペトラ遺跡」。ペトラとはギリシア語で「岩」を意味している。2000年以上前、この地に定住したナバタイ人が、切り立つ大岩のなかに築いた大都市。さまざまな文化がおりなす建造物や彫刻が多くあるが、目的が分からないものもあり、ミステリアスな面もまた魅力になっている。2007年に新・世界七不思議に選出されている。



Petra

Hashemite Kingdom of Jordan

ペトラ遺跡の象徴的な存在「エル・ハズネ」。巨大なファサード(正面外観)に圧倒される。



1:エル・ハズネ前の広場。観光客の大きさと比べるとその巨大さがわかる。2:ペトラ遺跡の奥にあり800段の石段を登ったところに現れる「エドフィル修道院」。3:王家の繁栄を物語る宮殿の墓とコリントの墓。



4:ペトラの入口であるシークは冒険心をくすぐられる。5:ペトラ遺跡に向かう途中の土産物屋。



ペトラ遺跡はシリアのバルミラ遺跡、レバノンのバールベックと並び中東の三大遺跡としても知られている。かつてメソポタミア、エジプト、ギリシア、インダスなどの文明を結ぶ要衝として栄えた。文化が融合した荘厳な遺跡が続くが、現時点でも遺跡全体の2割も発掘されていないともいわれている。

ペトラ遺跡の中心部へ導くシーク(峡谷)は幅2メートル、長さは1.2キロあり、両サイドの絶壁の高さは90〜180メートルという壮大さ。くねくねと曲がるシークを進むときは宝探しに向かう冒険者のようなワクワクした気分になるだろう。数十分歩くと、岩と岩の裂け目から徐々に姿を現すのが、ペトラ遺跡のシンボルともいえる「エル・ハズネ」だ。映画『インディジョーンズ/最後の聖戦』の舞台にもなった建造物で、紀元前1世紀頃の創建。高さ約45メートル、間口は25メートル。その荘厳さは圧巻だ。宝物殿、寺院、霊廟など諸説あるが実際は分らず、謎に包まれている。

さらに奥へ進むとローマ式の円形劇場、墓地群、凱旋門などを見学できる。凱旋門周辺はローマ時代に街があり、王家の墓や神殿があったと考えられている。次々と現れる建造物は、光の加減によって岩の色がさまざまに変化し、美しく、そして神秘性を醸し出している。ペトラ遺跡の最奥にあるのが「エドフィル修道院」だ。800段の石段を登るため、体力も時間も要する難所となる。山と一体となった神殿の周囲に、洞穴住居があるが、これはローマ帝国に併合された後に移り住んだ修道者たちの生活スペースと考えられている。正面の丘から見渡す景色は息を呑むほど雄大で、遙かにしえに思いをはせることだろう。

赤茶色の砂漠と巨大岩石からなる 壮大な世界、ワディラム

アカバ港から約60キロに位置するヨルダン南部観光のハイライト「ワディラム」。砂岩と花崗岩でできた広大な砂漠地帯は、映画「アラビアのロレンス」の舞台としても知られている。また2016年の映画「オデッセイ」では火星の設定でロケが行われている場所だ。

Wadi Rum

Hashemite Kingdom of Jordan

74,000ヘクタールにも及ぶワディラム保護区。砂漠に見られる多様な景観で人々を惹き付ける。



ワディラムは「月の谷」という意味。地球ではないような雰囲気をもった不思議な場所だ。荒涼とした赤土の砂漠のなかにそびえる岩山や峡谷、大規模な地すべりしてきた地形、大きな洞窟など変化に



多くの奇岩のなかで最も人気がある「ウナム・フルース石橋」。

富んだ景色が展開され、飽きることがない。そんな独特な雰囲気はどこか別の惑星にいるような錯覚に襲われる。

景観のほかにも先住民族が描いた壁画、碑文をはじめとする考古学的な遺産にもふれることができる。岩壁には多くの彫刻と碑文が組み合わされ、文字の発生初期の参考となる貴重な資料となっている。

ワディラムでの観光は、2011年に世界遺産登録されて以来特に人気を集めている。四輪駆動車で砂漠のドライブを体験することもできるし、コテージで一夜を過ごし満点の空の下でキャンプファイヤーを楽しむこともできる。日の出とともに起き、砂漠を朝日が染めていく様子を見るのはなんとも贅沢なひとときだ。



1



2



3

1:ワディラム屈指の景勝地であるハザリ峡谷。2:ワディラムにはラクダの姿がよく似合う。3:四輪駆動車ツアーなら砂漠の奥までロングドライブできる。



1



2



4



3

1:精製された死海の塩は浴用商品として販売されている。2:天然ミネラルたっぷりの死海の泥でパック。3:一度はやってみたい、死海で読書。4:モーセ終焉の地、ネボ山の頂上から死海を望むことができる。

浮遊体験で知られる死海は 古来のリゾート地

不思議な浮遊体験で知られる死海は、主な水源であるヨルダン川などから水が流入しているが出口がないため、湖水の蒸発によって塩分が残り濃度が高くなっている。浮かびながら本が読める、生物が生きできない、そして美容の聖地として有名だ。

Dead Sea

Hashemite Kingdom of Jordan

塩分濃度30%の死海でプカプカと浮遊体験。

ヨルダンとイスラエルに接している塩湖「死海」。海拔マイナス430メートルと世界一低い位置にある湖で、塩分濃度は海の約3%に対し30%と10倍もあるため、簡単に浮くことができる。そしてその高い塩分濃度ゆえに生物がほとんど生きないために「死海」と呼ばれている。実際に入って、水に座り込むように上半身を湖水にあずけると、プカプカ浮くことができる。ちょうど不気味な名前とは裏腹に、この気持ちよさと、酸素濃度が高くリフレッシュできるため、ヨーロッパやその周辺の人々は古くから温泉地あるいはリゾート地として死海に親しんできた。またマグネシウム、カルシウム、ナトリウムといった天然ミネラルが豊富で、死海の塩や泥が肌に良いとされ、美容に用いられることも多い。美容品としてもさまざま売られて

いるが、まずは砂浜を掘って顔や体に泥を塗ってみよう。乾いたらまた入って洗い流す。クレオパトラも愛していたとされる、天然ミネラルのパワーを実感すればよい土産話になる。現在、死海の水位は下がり続けており、保護活動が進まなければいずれは消滅するといわれている。世界でも死海だからこそできる異次元体験をぜひ味わってもらいたい。

バラエティ豊富なヨルダン料理。現地を訪ねたらぜひ味わいたい、代表的なグルメを紹介。また、中東らしさを楽しめるお土産もチェック！



ひっくり返す、という意味の料理「マクルーバ」。肉や野菜やご飯を多彩なスパイスで炊いて、鍋ごとお皿にひっくり返す。

前菜「メッサ」。豆のペースト、オリーブをはじめ種類は豊富。ホブスというパンと一緒に食べる。



古い遊牧民族ベドウィンの料理の流れを汲むといわれる「マンサフ」。ご飯にヨーグルトソースで煮たラム肉を乗せて食べる。



色とりどりの砂で砂漠やラクダなどの絵が描かれている「サンドボトル」。



パレスチナ伝統の刺繍がほどこされたクッション。



ヨルダンのオリーブオイルは高い品質を誇る。

頭にかぶる装身具「クーフィーヤ（カフィーヤ）」。「スカーフなどに用いることもできる。



塩分濃度が高い死海の泥を使ったせっけん。豊富なミネラルで肌を潤し滑らかに。



現実を伝え、改善を求め続ける行動をパレスチナ難民支援

イスラエル建国以降、難民として暮らす人々にピースボートは支援を続けてきた。パレスチナ難民の問題が遠くの世界の出来事にならないよう、その現実を伝え、改善を求める活動を続けている。



1948年のイスラエル建国に伴い、当時70万人以上のパレスチナ人が周辺諸国へ逃れた。ヨルダンの人口の7割以上がパレスチナ系住民といわれるほど、ここには多くのパレスチナ人が暮らしている。ピースボートは、1990年代からパレスチナ・ガザ地区を含むパレスチナ難民キャンプやヨルダンの難民キャンプを度々訪れた。交流コースでは、支援物資を届けると同時に難民キャンプで暮らす人々の声に耳を傾けてきた。常に顔の見えるつながりをつくり、そのネットワークをもとにパレスチナ、イスラエルからの若者たちが船上で対話する機会を設けたり、イスラエルによるガザ空爆に反対しパレスチナ難民支援の呼びかけも行ってきた。今後も難民や占領下に暮らす人々へのサポートを行い、国際社会に改善を求め続けていく。



6: 支援物資は直接運び手渡してきた。7: 現地での文化交流会の様子。8: アンマン市内にある難民キャンプ。



古来、栄えてきたアカバ。

ローマ帝国時代からイスラム王朝に至るまで重要な軍事拠点であったアカバ要塞は、12世紀に十字軍によつて築かれたといわれている。16世紀にオスマン帝国に再建された後、第一次大戦中にアラブ反乱軍の拠点としてオスマン帝国にゲリラ戦を展開した。アカバ要塞の海辺側には大きな広場があり、観光客や市民の憩いの場となっている。近くには7世紀頃の都市遺跡が発見されており散策しながら見学できる。またアカバは近年ダイビングスポットとして人気が高まっているため、アカバビーチはリゾート感たっぷりの観光エリアになっている。

ヨルダンの首都アンマンは港から320キロと離れているが、宿泊を前提に出かける人もいる。旧市街には商店街や市場があり、商業地区にはお洒落なショップやカフェが並び街歩きも楽しい。シタデルと呼ばれる城塞にある「考古学博物館」は国内の古代遺跡からの出土品が収められており100万年前の旧石器時代からイスラム時代までの貴重な所蔵品を鑑賞できる。2世紀につくられた「ローマ劇場」も訪ねてみたい。収容人数は約6000人で、修復されて現在もイベントなどに利用されている。アンマンの中心地にある「フセイニ・モスク」は市内で最も古いモスクの一つ。アラブ反乱の指導者フサイン・イブン・アリーにちなんで名付けられた。高さは58メートルもあり、アンマンのランドマークとしての存在感を放っている。



4: 皇帝アントニウス・ピウスによってつくられた「ローマ劇場」。5: ヨルダン最大のイスラム寺院「キング・アブドゥラーモスク」。青を基調とした巨大なドームをもつ。

Amman



ヨルダン唯一の海岸線 アカバ観光からアンマンへ

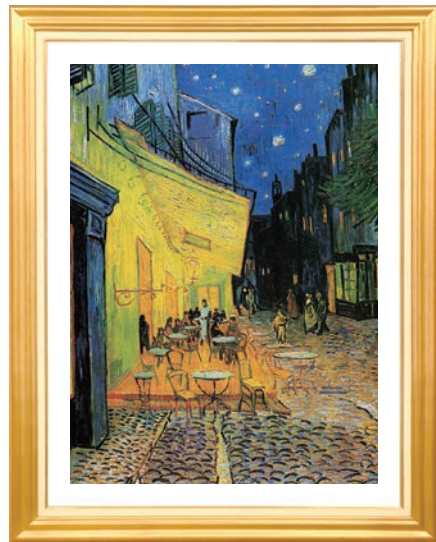
アカバは紀元前から人々が暮らした歴史ある港町。紅海に連なるアカバ湾の最奥に位置している。アジア、アフリカ、ヨーロッパをつなぐ交易拠点として知られ、エジプト王朝、イスラエル王国、ローマ帝国、イスラム帝国といずれの時代にも重要視されてきた。近年はリゾート開発も進み多くのクルーズ船の寄港地となっている。



1: アラブ反乱の指導者を称えた「フセイニ・モスク」。2: アカバビーチは洗練されたリゾート地として観光客も多い。3: アカバのシンボルともいえる「アカバ要塞」。

感動新たに あの名画の風景を訪ねる

一流の画家たちは、名画といわれる作品のなかに、世界各地の風景を残している。その場所や空気から、どのようなインスピレーションをもらい、どのような思いで絵筆を走らせたのだろうか。クルーズの寄港地で、画家たちが描いた場所を訪ねてみたい。きっと新たな感動に包まれるから。



夜のカフェテラス(1888年)
フィンセント・ファン・ゴッホ
マルセイユ／アルル(フランス)
南仏アルルのプラス・デュ・フォルム広場にあるカフェ。描かれた場所にプレートが設置されているので構図を確認することができる。



タヒチの女たち(浜辺にて)(1891年)
ポール・ゴーギャン
パペーテ(タヒチ)

1891年にタヒチに渡ったゴーギャンは女性をはじめ神話、風物を題材にした名作を残した。本作は圧倒的な存在感の女性と青い海、浅瀬の緑の海が展開されている。



サント・ヴィクトワール山(1887年頃)
ポール・セザンヌ
マルセイユ／エクス・アン・プロヴァンス(フランス)
セザンヌが生まれ育った街を見守るようにそびえるサント・ヴィクトワール山。セザンヌはこの山をテーマに80点以上の作品を残している。標高は1011mで登山道もある。



スフィンクスの前のボナパルト(1886年)
ジャン＝レオン・ジェローム
ポートサイド／カイロ(エジプト)
首から下が砂で埋もれていた「ギザのスフィンクス」前で、騎乗のナポレオンを描いている作品。遠くにはフランス軍の大連隊が広がっている。



睡蓮(1906年)
クロード・モネ
ル・アーブル／パリ郊外(フランス)
日本文化に大きな影響を受けていたモネは、自らこの日本的雰囲気漂う庭園を築き、その風景を約200点残している。庭園は現在も関係者によって維持管理されている。



ポン・ヌフ、パリ(1872年)
ピエール＝オーギュスト・ルノワール
ル・アーブル／パリ(フランス)
美しく整備され、賑わいを見せる当時のパリ。ルノワールはこの橋の近くにあるカフェの上階を借りて本作を描いたといわれている。また、ポン・ヌフは「新しい橋」という意味だが、今ではパリで最古の橋となっている。



叫び(1893年)
エドヴァルド・ムンク
オスロ(ノルウェー)
「友人と散歩をしていたときに空が赤くなり、不安に襲われ、自然を通り抜けていく叫びを聞いた」とムンクは語っている。この場所はエーケベルグの丘の頂上にある。



橋、ブラックウェルズ島(1909年)
ジョージ・ベローズ
ニューヨーク(アメリカ)
アッシュカン派の代表的画家ジョージ・ベローズは、クイーンズボロ橋完成の1909年に本作を描いた。中洲のブラックウェルズ島(現在のルーズベルト島)、対岸のクイーンズ地区の眺めは変わったが、橋は当時のままの面影をたたえている。



エトルタの断崖(1885年)
クロード・モネ
ル・アーブル／エトルタ(フランス)
イギリス海峡に面した断崖絶壁。自然の造形美が見事で多くの画家が絵の題材に選んでいる。モネは毎年のようにこの場所を訪れていたという。



紺碧のアドリア海を巡る

初寄港「トリエステ・コペル・スプリト」

紺碧の海と中世の街並みが残るヨーロッパ有数のリゾート地、アドリア海。海岸沿いに美しい街が点在し、古代ローマから中世、近代に至るまで歴史ドラマの舞台になってきた。複雑な歴史、文化の融合が独自の魅力を放っている。



Adriatic Sea Cruise



Trieste Italy
19世紀初めに建てられた「サンアントニオ教会」。

トリエステから足を延ばして水の都ヴェネツィアへ

運河が縦横無尽に走るヴェネツィアの主な移動手段は水上バスか水上タクシー。観光で水の都を満喫するためにゴンドラ遊覧はかせない。景色を楽しみながら水上を進むなら、大運河「カナル・グランデ」へ。ヴェネツィアのメインストリートとも言える運河で、多くのゴンドラや水上バスが行き交う様は海洋貿易の中心地として栄えた歴史を感じさせる。市内にかかっている400以上の橋のなかで最も美しいとされるのが「リアルト橋」。世界遺産「ヴェネツィアとその潟」の構成要素のひとつになっている。街の観光スポットも数多く、「サンマルコ広場」ではぜひ荘厳な「サンマルコ寺院」「ドゥカレ宮殿」を見学したい。運河の向かい側のサンジョルジョ・マッジョーレ島で教会の最上部に上ると、アドリア海に囲まれたヴェネツィア本島の全貌を眺めることができる。



4:カナル・グランデに架かる、街のシンボル「リアルト橋」。長さは約48m。5:ヴェネツィアは大小の運河が走り、小さな運河は建物が間近で風情がある。

Trieste

Gourmet & Souvenirs

トリエステは多くの文化人が愛した歴史ある飲食店が建ち並ぶカフェの街としても知られ、新鮮な魚介類をはじめとしたグルメも堪能できる。



生ハムや海の幸とともに白ワインを楽しみたい。



たっぷりのシーフード、トマトなどを使った絶品パスタ。



「Capo in B」と呼ばれる名物のエスプレッソコーヒー。



1:トリエステで最も大きな広場「イタリア統一広場」。各種イベントが開かれる場所でもある。2:観光客で賑わう美しい佇まいの「ミラマーレ城」。3:イタリア統一広場沿いの「カフェ・デリ・スベッキ」。優雅なテラス席で休憩できる。



トリエステ中央駅から10分ほどのところにあるのが「イタリア統一広場」。周囲を市庁舎や旧ロイド・トリエステイノ宮殿などの立派な建築物に囲まれている。細かな装飾が

イタリア北東部に位置するトリエステは、アドリア海に面した坂の多い街でスロベニアとの国境沿いにある。19世紀、ハンガリー帝国（オーストリア）の統治下であり、その影響を受けた建築物や街並みは美しく、歴史遺産も多い。

優雅に街歩きを楽しめる
「トリエステ」



海沿いに建つ女性の像。

施された建築群は美しく、広場をぐるりと歩くのも楽しい。また海に面しているため開放感があり、カフェに入って広場を眺めるのもおすすめだ。近くの大運河「カナル・グランデ」沿いはレストランや土産物屋が建ち並び観光客も多い。運河の終点にある「サンアントニオ教会」は19世紀はじめに建てられ、ファサード（正面外観）にギリシャ神殿のような列柱が並び存在感を放っている。教会前は広場になっていて、市民が

憩い、散策する姿が見られる。

トリエステ中心部から北西の海岸沿いにあり、観光スポットとして必見なのが「ミラマーレ城」。外壁が白く美しいことから「白亜の城」として知られている。海を望める素晴らしい庭園を備え、いつも観光客でにぎわっている。このほかの見どころとしては旧市街の「サン・ジュスト大聖堂」。隣接している「サン・ジュスト城」とともにトリエステのシンボリック存在として観光客の人気の高い。大聖堂は長い歴史のなかで増改築が繰り返され、2つの聖堂が合体するかたちで現在の姿になった。大きな鐘楼や独特なデザインの窓が印象的で、内部のモザイク画も一見の価値がある。ここまで足を延ばしたら丘の麓にある「ローマ劇場」にも立ち寄りたい。ローマ時代の面影を残す円形劇場の遺跡で、現在もコンサートをはじめイベントが開かれている。



スロベニア唯一の商業港「コペル」

コペルはスロベニア西部のアドリア海に突き出たイストリア半島の根元に位置している。13世紀から18世紀にかけてヴェネツィア共和国の統治下にあり、旧市街はヴェネツィア風の街並みが広がる。また同国唯一の国際貿易港としてスロベニア経済を支えてきた歴史もある。

コペルの誕生は古代ギリシャローマ時代にさかのぼり、中世には要塞都市として発展した。ヴェネツィア共和国の影響は大きく、住所や標識もスロベニア語とイタリア語が併記されている。また狭い通りや小さな広場などはヴェネツィアの街並みを思わせる。旧市街には、壮麗な建造物が多く残されていて、その代表がかつての執政官の館であった「プレトリアン宮殿」だ。街の中心地である中央広場の南側に建っており、ゴシック様式の外観もエレガント。現在は市議会や観光局などが入り、現役で活用されている。このほかロジアン宮殿、ブルッティ宮殿でも古く美しい建築様式を見ることが

ができる。街のランドマークはとんがり帽子の「ベルタワー」で、高さは54メートル。階段で頂上まで上がると視界が360度開け、街全体とアドリア海の風景を見渡すことができる。このほか17世紀頃に建てられた塩の倉庫「タヴェルナ」では、マーケットや展示、イベントが行われていて活気がある。



13世紀に建てられ現在の外観になったのは15世紀という「プレトリアン宮殿」。



1: 街の至る所から見えるコペルのランドマーク「ベルタワー」。2: 旧市街には古い建物が多く街歩きも趣があって楽しい。3: 街の中心地である「中央広場（ティート広場）」。4: スロベニアの代表的料理の一つ、ソーセージやローストポーク、酢漬けキャベツなどを盛り込んだ「クメチュカ・ボイエディナ」。

クロアチアの 世界遺産都市「スプリット」

スプリットは首都ザグレブに次ぐ規模をもつクロアチア第二の街。古代ローマ時代から交易で発展し、当時の遺跡が点在する。また同時に自然と街並みが美しい風光明媚な港町でもあり、観光地としての人気も高まっている。



旧市街はかつてのローマ皇帝が建てた「ディオクレティアヌス宮殿」が現存し、街全体が世界遺産に登録されている。城壁で囲まれ4つの門が設けられた宮殿に「銀の門」から入ると「ペリステイル広場」が現れる。コリント式の石柱で囲まれた中庭で、スフィンクス像は皇帝がエジ

プトから持ち帰ったものといわれている。広場のそばにある「聖ドムニウス大聖堂」は荘厳な雰囲気にも包まれている。当初は皇帝の石棺が置かれていたが、7世紀にキリスト教の大聖堂へと姿を変えた。内部の祭壇や美術品は貴重な文化遺産であり、特に入口にあるキリストの生涯を28場面に分けた彫刻は傑作として名高い。また大聖堂には中世に建造された高さ約60メートルの鐘楼があり、階段で上がるとスプリット全体を見渡すことができる。大聖堂の反対側にある「ジュピター神殿」にも足を延ばしてみよう。内部の天井は美しく装飾され、聖人ヨハネの銅像が祭られている。



1: レストラン、雑貨店も多く、グルメやショッピングも楽しめる。2: 現在はコンサートやさまざまなイベントが開催される「ペリステイル広場」。3: 「ディオクレティアヌス宮殿」にある時計塔。



近郊にある中世の街並みを残す「シベニク」にオプションルツァーで行くことができる。



旧市街の美しい街並みが広がる港町コペル。

被災地への 継続した支援を

2022年夏

PBV水害支援報告

毎年のように発生している台風、大雨被害は年を追うごとに規模が大きく、頻度が増しているようだ。今年もPBV(ピースボート災害支援センター)では相次ぐ水害被害に対して被災地支援を続けている。理事の小林深吾さんに支援の内容を聞いた。



PBV ピースボート
災害支援センター

【オフィシャルサイト】<https://pbv.or.jp/>

地球規模の気候変動により気温が上がり、海水温の上昇も問題となっている。それは大気中の水蒸気を増やし豪雨の発生要因となり、台風大型化の原因にもなる。「30、40年前と比べ豪雨の発生状況は1.7倍くらい

になっていて、記録的大雨や線状降水帯がニュースとして取り上げられ、今や水害は日本のどこでも起こり得ることです」と小林さんは言う。

また国内外での豊富な支援経験から、家屋が浸水被害に遭うとリフォームするにも再び家財を揃えるにも長い時間がかかり、再建の道のりが厳しいことを痛感している。「だからニュースなどでその時だけ被災地に目を向けるのではなく、多くの方が関心を持ち続けること、そして継続した支援が必要です」。

今年の夏は7月の宮城をはじめとする東北、8月の東北、北陸、そして9月の九州、静岡と立て続けに大雨、台風による被害に見舞われた。

「PBVとしては常に初動を早くすることを大切にしています。いずれの災害時にも、社会福祉協議会、各支援団体などと連携してスタッフを派遣し、まず状況を把握しニーズを調査して実際の支援に入ります」。

8月の水害時にPBVは新潟県と山形県に入って物資支援を始め、その後被災家屋の支援に回り、泥が入った室内の清掃、床下の清掃などに携わった。



9月末、台風15号によって大きな被害を受けた静岡へもスタッフを派遣。約6,000世帯が浸水被害を受けたとされ(現在調査が進行中)、PBVが入った静岡市の一部ではほとんど支援が届いていない状況で当初の3日間は炊き出しから始まった。

「私たちが向かった地域では『初めて支援がきてくれた』と涙する人もいましたし、5日間ずっと家の清掃を続けている人、車が無くなって買物に行けなくなっている人など大変な状況でした」。

今後PBVは静岡でも浸水した家屋清掃の支援を続けていくことになる。「床上浸水だと水に浸かった断熱材を取り、乾燥させないとカビが生えるため、以前のような状態に戻すまで数ヶ月かかります。これから寒くなる

ついに再開！広島でピーススタディツアー 福島子どもプロジェクト2022

2011年から、ピースボートはPBVと共同で震災と原発事故で被災した子どもたちを対象とした「福島子どもプロジェクト」を実施している。コロナ禍で2年間の中断となったが、今年は8月の広島で南相馬市の中学生2名と戦争・平和・歴史について考える4泊5日のピーススタディツアーが実現した。



ツアーは8月3日が初日。初日はまず広島を感じるといことで、お好み焼きランチからスタートし、広島城、おりづるタワーなど市内を散策した。2日目のテーマは「原爆について知る」。午前中は袋町小学校平和資料館、爆心直下地を訪れ、平和記念公園内をヒロシマピースボランティアの方に案内してもらった。午後は平和記念資料館へ。二人は展示品などを見て「原爆投下は現実起こったことなんだ」と感じたようだ。その後、ソーシャルブック

カフェハチドリ舎で聞いた、伊藤正雄さんの被爆証言も貴重な体験となった。3日目は「大久野島、尾道へ」。バスとフェリーを乗り継いで辿り着いた大久野島で迎えてくれたのは高校の社会科の先生をしていた山内正之さん。毒ガス資料館や戦争遺跡をめぐりながら、島の戦争の歴史を解説してもらった。ちよつと一息の尾道で食べた食事は、もちろん尾道ラーメン。4日目の8月6日は広島に原爆が投下された日。式典が行われる平和記念公園

へ向かい、集う人々の様子、読経、デモなどこの特別な日の雰囲気を感じて。宮島観光の後は再び夕方に平和記念公園へ戻り、灯籠流しを見学した。さらに、原爆を生きた延びた「明子さんのピアノ」のコンサートイベント準備をしていたピースボートスタッフと合流し交流することもできた。あつという間に最終日。ピースボートスタッフから渡された修了証に書かれた「今回感じ、経験したことが人や世界とつながる楽しさ、学ぶことの大切さを知るきっかけになっていたれば嬉しいです」の一文に、二人は力強く頷いてくれた。ピースボートでは今後も南相馬の子どもたちと継続した取り組みを計画している。



福島子どもプロジェクト これまでの活動

福島子どもプロジェクトでは、これまで100人を超える中高生がピースボートが企画するクルーズやスタディツアーに参加。世界を旅して、学び、交流し、楽しみながら知見を広げている。



2011年 南相馬の中学生49名が、アジア3カ国で国際交流

2012年 夏休み福島×ベネズエラ音楽交流プログラム

2013年 オーストラリアで学ぶ「持続可能な社会」とは

2014年 異文化を体験するアジア国際交流の旅

2015年 海でつながるアジア自然と歴史を学ぶ旅

2016年 平和なアジアは友達作りから

2017年 南相馬から世界へ～海でつながるロシア・韓国・日本～

2019年 東アジア国際交流の船旅

福島子どもプロジェクトでは、プロジェクトの持続のため募金の呼びかけを行っています。皆様のご協力をお願い申し上げます。

募金方法

●郵便振替 ●銀行振込



船上百景 [運河通航日]



スエズ運河の通称「平和大橋」は日本のODAによって建造。多くの乗客がトップデッキに集まる。

世界三大運河を渡る日は みんなワクワク

船旅だからこそ味わえる楽しみの一つに「運河の通航」がある。ピースボートクルーズでは一度の航海で世界三大運河のスエズ運河とパナマ運河を体験できる航路もある。西まわり航路の場合、スエズ運河を航行するときには右手にシナイ半島、左にアフリカ大陸を望みながら進む。なんとも優雅な眺めだ。見どころの一つはエジプトと日本の友好の証である「平和大橋」。そのスケールに圧倒されて、デッキのあちらこちらから「おーっ」という声がかかる。パナマ運河は高低差26mの「水の階段」を昇降する。船が閘門に入ると門が閉まり、水が注入されて水位が上がりが船が上昇する。ゆつくりと水門が開くと、デッキに歓声が響き渡る。細い水路をギリギリに進むのもちよつとドキドキ。その後はガトゥン湖の大自然のなかを遊覧して、いざ太平洋へ！



パナマ運河は海拔0mから26mまで上がる階段式。



パナマ運河通航の時にデッキで。



「アッサラム・アレイコム」。これはアラビア語圏でよく使われる挨拶で、あなたの上に平安をという意味をもちます。今号で特集しているヨルダンの首都アンマン市内にあるパレスチナ難民キャンプを訪れたとき、この言葉をたくさん使ったことを覚えていました。また、現地を案内してくれた方が「あの建物は学校でこちらが市場と理髪店。ここは普通の街に見えますが、実は難民キャンプなんです」と説明してくれたのも印象に残りました。それは、それまで私が想像していた、難民キャンプのイメージとは大きく異なり、小さな都市のように見えたからです。それもそのはずで、既に設立から半世紀もの歳月が過ぎ、10万人以上が暮らしている街になっていたので。今年、ウクライナから750万人を超える人々が欧米をはじめ日本にも難民として逃れています。世界では紛争や迫害が原因で家を追われる人が1億人を超えました。そのうち子どもの比率は41%。ヨルダンの難民キャンプにも、その地で生まれた多くの子どもたちが走りまわっていて、私たちに人なつこい笑顔で挨拶してきます。

「アッサラム・アレイコム」のお返しに挨拶は、前後を入れ替えて「ワアレイコム・アッサラム」。その意味は、あなたの上にも平安を。生まれ育った故郷を追われ、見知らぬ異国の地での生活を余儀なくされる方々の上に、一日でも早く平和と平安が訪れることを願います。(NI)